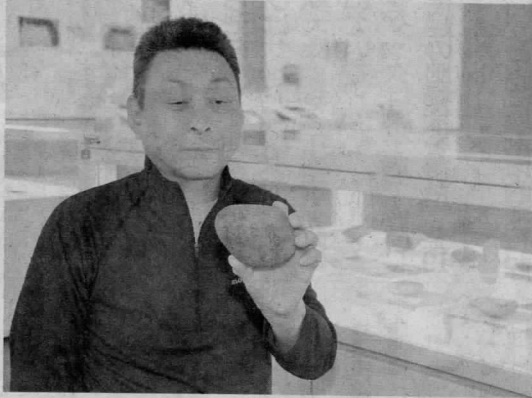


県埋蔵文化財センター

県埋蔵文化財センター（長野市）は12日午後1時から、講演会「掘るしん in しもすわく遺跡から見る中世の祈り」を下諏訪町の下諏訪総合文化センター大ホールで開く。同町の諏訪湖博物館

あす講演会「掘るしん」



表裏にびっしりと経文が書写された「礫石経」を手に「祈りの思いの強さがある」と語る宮坂館長

発掘史料から語る下諏訪の中世の歴史

・赤彦記念館で開催中の企画展「しもすわ鎌倉物語（19日まで）」の関連企画。同館は「文字史料がなく分かりにくかった下諏訪の中世の歴史について、発掘史料から語るまたとない機会」としている。入場無料。申し込み不要。

同センターが、県内で進めている発掘事業で得た成果を地元住民に還元する機会として年1回開く。今回は町内の国道20号下諏訪岡谷バイパス建設予定地で2020～21年に発掘が行われた「ふじ塚遺跡」の調査成果について報告する。この調査で同遺跡が「礫石経塚」であると判明したという。礫石経は企画展で展示中。

基調報告では、諏訪湖博物館の宮坂清館長が同町高木の殿村・東照寺社遺跡出土の礫石経（13～14世紀）について解説するほか、同センター調査指導員の河西克造さんが6万点以上もの礫石経（16世紀）が出土したふじ塚遺跡について報告する。立正大学の時枝務教授「宗教考古学」は「礫石経の語り」と題して講演。最後に3人によるディスカッションもある。（樋口美世子）